

幼児をもつ親の育児に関する意識

—父親と母親の比較を中心に—

住田正樹（放送大学）

○中村真弓（尚絅大学短期大学部）

○山瀬範子（四国大学短期大学部）

I 問題の所在

本発表の目的は、今日の幼児をもつ親の育児に関する意識を明らかにすることである。

産業構造の変化、少子化、価値観の多様化などの影響をうけて戦後の日本の育児をめぐる環境は大きく変化したと言われて久しい。育児期における母親の過剰負担や社会的孤立は、育児不安（牧野によれば、いわゆる健康な育児行動を阻害するような一種の“負荷事象”を、育児をする者が主観的に表明したもの）の問題を出現させた。1980年代以降、牧野カツコに代表される一連の育児不安の研究は、父親の育児参加や家族を超えた育児ネットワークの重要性を示したといえよう。本発表の中村は育児ネットワークの研究を、山瀬は父親の育児参加の研究を蓄積しているところである。

さて、育児に関する多くの研究が蓄積され、また少子化対策の下に、人的・物的環境の整備がなされているにもかかわらず、育児の問題が解決したと感じている人々は少ない。

では、「育児」とは、具体的に何をさすのだろうか。『新社会学辞典』（有斐閣）によれば、育児とは「未熟な状態で生まれた人間の子どもを、保護し養育する営み」と定義される。しかし、我々が、実際、育児という言葉を用いるとき、そこには社会・文化的に様々な意味づけがなされている。育児に関する研究は

数多く蓄積されているが、『育児』という営みに付与される意味づけに注目した研究は少ない。実際に育児をしている父親及び母親についての認識の欠如も然ることながら、そもそも「育児」というものが何であるのかが明らかにされないままではないだろうか。

そこで、本発表では、実際に育児を行っている当事者である若い親たちが、1) 育児をどのようにとらえているか、2) 父親と母親の役割について、3) 育児をめぐるどのような感情を抱いているか、父親と母親の比較によって明らかにしていく。

II 調査の概要

本発表において取り扱うデータは、幼稚園・保育所を利用する父親及び母親を対象にした質問紙調査で得られたものである。2007年10月から12月にかけて、福岡市及び熊本市内の4幼稚園と3保育所の協力を得て、そこに通う3～6歳の幼児をもつ父親及び母親を対象に実施した。調査方法は、園のクラス担任から、園児に調査票を配布して、父親及び母親に記入させる留置法を採用した。きょうだいで通園する場合は、長子に配布するようにし、各世帯1部の回答を得るようにした。1001組の配布に対し有効回収票数は607組であり、回収率は60.6%である。

Ⅲ 調査結果の分析

(1) 育児の捉え方

① 育児期の始まりと終わり

父親及び母親は、育児がいつから始まり、いつ終わるととらえているのだろうか。

まず、育児期の始まりは、全体的に見てみると、妊娠が分かってから(44.3%)、出産してから(41.2%)に分かれる。父親については、妊娠が分かってから(41.9%)、出産してから(37.4%)、出産準備以降(12.5%)となっていた。母親については、妊娠が分かってから(46.5%)、出産してから(44.5%)、出産準備以降(5.1%)と答えていた。また、父親と母親を比較すると、父親のなかに出産準備以降と答える者が多く、母親には出産してからという者が多い。父親の場合だと、身体的変化がないため、出産準備を始めたなかで育児の始まりを自覚したのであろう。

次に、育児期の終わりについては、どうであろうか。選択肢として、生まれてから1年、保育所・幼稚園に入園した頃、小学校に入学した頃、中学校に入学した頃を挙げていたが、父親では、中学校に入学した頃(44.1%)、その他(34.8%)であり、母親になると、その他(55.1%)、中学校に入学した頃(31.8%)となっていた。「育児」という用語は、乳幼児期の子育てをイメージしていたが、実際に育児に携わる父親・母親たちは、育児の終わりを義務教育の終了段階どころか、就職や結婚するまでとするなど、育児を長くとらえる傾向が見られた。また、その傾向は、母親によく見られた。

② 子育ての意味

では、子育ての意味についてはどうだろうか(表1)。全体的に見ると、子育てとは、「子どもを育てることで、自分が成長する

(75.4%)」、「家族の絆を深める(72.1%)」、「次の社会を担う世代をつくる(56.1%)」、「子育てをするのは楽しい(43.1%)」、「自分の生命を伝える(37.5%)」こととなっている。父親及び母親の傾向も同様であるが、父親には「家族の絆を深める(68.5%)」と「子どもを育てることで、自分が成長する(68.5%)」が同程度見られた。また、母親の場合では、「子どもを育てることで、自分が成長する(81.5%)」、「子育てをするのは楽しい(48.6%)」、「家族の絆を深める(75.4%)」といった精神的な意味合いを持つのに対して、父親の場合では、「家の存続のため(12.1%)」、「子どもを持ち育てるのは当然だ(9.6%)」、「自分の志を継いでくれる後継者(7.5%)」、「子どもを持つことで社会的に認められる(2.8%)」といった社会的な意味合いを持つ傾向が見られ、有為差が認められた。

③ 理想の大人像

将来、わが子にどのような大人になって欲しいかを選んでもらったところ、大多数が、「他人を思いやる心をもつ人(76.8%)」を挙げており、割合は低くなるが、「規則を守り、公共心をもつ人(30.7%)」、「物事を計画し実行する力をもつ人(30.5%)」、「忍耐強さをもつ人(28.2%)」と続いている。父親と母親を比較すると、父親ほど、「公正さや正義感をもつ人(24.6%)」、「独創性や個性をもつ人(12.8%)」、「責任感のある人(27.3%)」になって欲しいと思い、母親では、「他人を思いやる心をもつ人(83.2%)」、「金銭や物を大切にすることを心をもつ人(21.8%)」、「落ち着きがあり、情緒が安定した人(15.1%)」を求める。

④ 父親・母親の考える育児行為

次に、父親及び母親が、育児とは何をする事だと考えているのだろうか(表2)。全体

的に見てみると、「基本的な生活習慣を身につけること(66.5%)」、「情操を育むこと(47.9%)」、「社会的ルールを教えること(46.3%)」となっている。実際、食事や排泄、衣類の着脱といった基本的な生活習慣の自立に向けた育成や、社会性を身につけるための働きかけが行われているのであろう。父親に比して、母親は、育児とは「基本的な世話をすること(38.7%)」や「基本的な生活習慣を身につけること(70.2%)」であると考えており、父親では「社会的ルールを教えること(52.0%)」や「経済的基盤を整えること(6.3%)」を挙げていた。

(2) 父親・母親の役割

① 父親・母親の役割は同じであるか？

父親と母親の役割が同じであるか否かについての設問に対しては、約8割の者が、それぞれの役割が違ふと(「どちらかといえば違ふ・46.9%」+「違ふ・30.5%」)しており、父親及び母親でも同様の傾向であった。

また、仕事と育児のバランスについて尋ねたところ、父親であれば、仕事と育児に同じようにかかわるべき(66.8%)であり、母親であれば、育児を優先すべき(68.4%)であるという意見が多く見られた。ただし、これについては、父親ほど、父親であっても、仕事と育児を両立したり、育児を優先すべきであると、父親と母親が同じように育児にも関わらなければならないという考えをもっているのに対して、母親では、父親は仕事を優先し、母親は育児を優先すべきだとしていた。

② 父親・母親の行う育児行為

では、父親・母親の具体的な分担については、どのように考えているのだろうか。それぞれの育児行為は、誰が担うことだと思っているのであろうか。全体的に見ると、父親及

び母親の両方がすべきだと考えられているのが、「社会的ルールを教えること(94.6%)」、「情操を育むこと(93.4%)」、「基本的な生活習慣を身につけること(89.1%)」、「知的能力を引き出すこと(81.9%)」、「芸術的能力・身体的能力を引き出すこと(80.9%)」であった。また、父親が主ですべきことは「経済的基盤を整えること(69.9%)」であり、母親が主ですべきことは「基本的な世話をすること(54.6%)」であるとしていた。

(3) 育児をめぐる感情

① 育児に関する肯定的・否定的感情

育児をするなかで、日々感じることにについては、全体的としては「子どもの顔を見ると気持ちが安らぐ(99.8%)」、「子どもを育てることは楽しいと思う(98.8%)」、「子育てによって様々な経験ができたと思う(98.5%)」、「子育てによって生活が充実していると思う(96.0%)」、「子どもを育てることで自分も成長したと思う(94.5%)」と肯定的な感情を抱いている者が大多数である。しかし、一方では「子どもを育てるために我慢することがある(92.6%)」も同程度見られた。また、父親と母親を比較すると、母親の方が、より否定的な感情を抱いている。「子どもを育てるために我慢することがある(95.9%)」、「将来、子どもがうまく育ってくれるか心配になる(80.6%)」、「一人になりたいと思う(78.8%)」、「子どもを育てることに不安を感じる(76.1%)」、「子どもの世話をするのが嫌になる(59.4%)」と答えており、いずれの項目についても、父親に比して、否定的に感じていた。

② 育児についての悩みや不満

では、わが子を育てている中で、どのよう

な悩みや不満を抱えているのだろうか。父親と母親では、その様相は異なる。母親では、「しつけや教育に自信が持てない（40.3%）」が最も多いが、父親では「子どもに関わる時間が持てない（41.6%）」が最も大きな悩みで

あった。また時間については、母親は「自分の時間が持てない（27.1%）」と感じていた。

IV まとめ

* 大会当日、詳しい資料を配布します。

表 1 子育ての意味（複数回答） (%)

	父親	母親	全体
自分の生命を伝える	36.0(191)	38.8(233)	37.5(424)
自分の志をついでくれる後継者 ***	7.5(40)	3.0(18)	5.1(58)
家の存続のため **	12.1(64)	7.0(42)	9.4(106)
次の社会を担う世代をつくる	57.7(306)	54.6(328)	56.1(634)
子どもを持つことで社会的に認められる *	2.8(15)	1.2(7)	1.9(22)
子どもをもち育てるのは当然だ **	9.6(51)	5.0(30)	7.2(81)
家族の絆を深める **	68.5(363)	75.4(453)	72.1(816)
子どもを育てることで、自分が成長する ***	68.5(363)	81.5(490)	75.4(853)
子育てをするのは楽しい ***	37.0(196)	48.6(292)	43.1(488)
老後の面倒をみてもらう	3.0(16)	3.2(19)	3.1(35)
子どもは一家の働き手	0.9(5)	0.7(4)	0.8(9)
特に意味はない	1.9(10)	0.7(4)	1.2(14)
その他	2.3(12)	3.2(19)	2.7(31)

*** P<.001、** P<.01、* P<.05（無回答・不明は除く。カッコ内は実数。以下、同様。）

表 2 父親・母親の考える育児行為（複数回答） (%)

	父親	母親	全体
基本的世話をすること ***	20.6(108)	38.7(231)	30.2(339)
経済的基盤を整えること ***	6.3(33)	2.3(14)	4.2(47)
基本的な生活習慣を身につけること **	62.3(327)	70.2(419)	66.5(746)
社会的ルールを教えること ***	52.0(273)	41.4(247)	46.3(520)
情操を育むこと	50.7(266)	45.4(271)	47.9(537)
芸術的能力を引き出すこと	1.5(8)	1.0(6)	1.2(14)
身体的能力を引き出すこと	2.3(12)	1.0(6)	1.6(18)
知的能力を引き出すこと *	4.8(25)	2.3(14)	3.5(39)
その他	2.1(11)	2.5(15)	2.3(26)

*** P<.001、** P<.01、* P<.05